

発刊日 平成 23 年 11 月 11 日

奈良体育学会会報

第 69 号 発行 奈良体育学会

事務局：奈良女子大学 スポーツ科学 (〒630-8263 奈良市北魚屋西町)

ご挨拶：奈良体育学会大会開催にあたって

岡澤祥訓(奈良教育大学)

週末の雨以降、秋の深まりが感じられます。会員の皆様におかれましてはますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。

さて、「平成 23 年度奈良体育学会大会」のご案内をさせていただきます。今年度も奈良女子大学を会場として開催いたします。以下の通り、一般報告とシンポジウムが予定されております。シンポジウム「暮らしの充足とスポーツーからだとどう向きあうかー」では、どのようにスポーツとつきあいながら日々の暮らしを充足させていけばよいのかというヒントを奈良在住の 4 名のシンポジストに提供していただきます。なお、このシンポジウムは昨年度同様、奈良女子大学地域貢献事業のひとつである「フォローアップ事業」としても企画されており、奈良県の運動推進員等、奈良体育学会会員以外の方も出席されます。

一般報告では研究を志す大学院生から活躍中の研究者まで5名の方が多様な話題を展開されます。
この機会に、多くの方々と幅広い意見交換ができますことを期待しております。ご多忙とは存じますが、ご参会いただけますようお願いいたします。

平成23年度奈良体育学会大会のお知らせ

期 日：平成23年11月26日（土）

会 場：奈良女子大学文学部北棟N201・202教室（別紙の地図をご参照下さい）

大会プログラム：

12:30～ 受付（N202教室前）

12:40～12:55 平成23年度奈良体育学会総会（N202）

13:00～14:30 一般報告（発表時間20分、質疑応答10分）

第1会場（N201）

1-201-1（13:00～13:30）

「韓国における男女のスポーツの平等機会に関する考察」

○崔允敬（奈良女子大学大学院）

キーワード：韓国の体育スポーツ政策、男女のスポーツ機会

要旨：韓国ソウルの中・高・大学生の体育スポーツ活動に関する調査から、その実態と意識を明らかにし、これまでの韓国のスポーツ政策を踏まえ、今後の女性スポーツの方向性を検討するための視点を提示する。

1-201-2（13:30～14:00）

「メディア・スポーツ・リテラシー教育に関する実践的研究—大学生を対象として」

○大橋充典（奈良教育大学大学院）

キーワード：メディア・スポーツ、メディア・リテラシー、実践モデル

要旨：メディア・スポーツを視聴する際、リテラシーの必要性が近年強調されている。対話を中心としたグループ活動を通して、メディア・スポーツ・リテラシーをどのように育成すべきなのか、実践を交えながら検証を行う。

1-201-3 (14:00~14:30)

「篠原助市『体育私言』(1932年)の現代的意味」

○山本徳郎

キーワード：身体、衝動、意志的形成

要旨：浅井浅一が影響を受けた篠原助市「体育私言」を検討する。篠原は身体を「内から」考察し、彼の言う「身体の意志的形成」において「衝動」を積極的に位置づける。これは思想史的に特筆に価するが、その意味を「身体運動(スポーツ)の教育可能性」から考える。

第2会場 (N202)

1-202-1 (13:00~13:30)

「椅子からの立ち上がり動作を用いた下肢筋力の加齢変化」

○中谷敏昭、寺田和史、白石 晃、池田憲昭(天理大学体育学部)

キーワード：椅子立ち上がり、下肢筋力、加齢変化

要旨：健康な成人男女1328名を対象として、椅子からの立ち上がり動作を用いた下肢筋力(力発揮速度と体重挙上指数)の加齢変化について性差や年代差を検討した。その結果、性別および年代別の二要因分散分析の結果、下肢筋力に有意な交互作用が認められた。

1-202-2 (13:30~14:00)

「農山村部における総合型地域スポーツクラブ運営の実態と課題ーソーシャル・キャピタルの観点からー」

○仲谷鈴雄奈(奈良教育大学大学院)

キーワード：農村部、総合型地域スポーツクラブ、ソーシャル・キャピタル

要旨：総合型地域スポーツクラブが農山村部において、地域コミュニティ形成にどのような役割を果たしているのか、奥永源寺総合型地域スポーツクラブを対象に運営の実態と課題を調査し、ソーシャル・キャピタルの観点から考察する。

14:45～17:00 公開シンポジウム（N202）

テーマ：暮らしの充足とスポーツ —からだどう向き合うか—

趣旨：健康で長生きすることの意義が改めて実感される時代となり、「生涯スポーツ」という言葉も耳慣れてきた。一方で、スポーツをすれば丈夫な体ができるとは限らないこともまた真実である。私たちが、この奈良で、満ち足りた気持ちで人生を送るためにはどのようなスポーツとの付き合い方があるのだろうか。今回のシンポジウムでは、奈良で深くスポーツと関わってこられたお二人、奈良の研究者お二人から、ヒントを頂きたいと考えている。まず、スポーツの発展を振り返るとき、今日の私たちのスポーツ観に大きな影響を及ぼしている競技スポーツが必ずしも絶対的価値をもつものではないことを松井氏に具体的にお話いただく。次に、嘉生氏に、奈良の部活動指導の実際、生涯スポーツの実際について、ご自身の体験を基にご紹介いただく。松崎氏からは、今日に至るまで、50年以上スポーツと関わり続け、現在も世界を舞台にスポーツに取り組む活動の実際について語っていただく。最後に、岡澤氏から、日本のトップアスリートの実際の姿を含め、私たちがスポーツをする上でのアドバイスをいただく予定である。

シンポジスト：松井良明（奈良工業高等専門学校）

嘉生寛（奈良市立若草中学校）

松崎隆美（西日本 OB サッカー連盟事務局長）

岡澤祥訓（奈良教育大学）

17:00～ 懇親会（奈良女子大学 大学会館1階生協食堂）

会費：3,000 円

※当日受付可ですが、料理の注文の都合上、できるだけ 11月18日（金）までに奈良女子大学・

井上までお申し込み下さい。

TEL/FAX：0742-20-3302 Eメール：yinoue@cc.nara-wu.ac.jp

奈良女子大学構内図



奈良体育学会事務局よりお知らせ

○研究年報原稿依頼

奈良体育学会では、会員の皆様からの「奈良体育学会研究年報」への投稿をお待ちしております。

学会大会で発表していない論文も、「誌上発表論文」として掲載します。

締め切り：平成 24 年 1 月 31 日(火)【消印有効】

提出先：奈良体育学会事務局（奈良女子大学 文学部 井上宛）

※CD-ROMなどの媒体と（メールへの添付ファイル可）、プリントアウトした印刷物と
をご提出下さい。折り返し受領のお知らせをしますので、メール等の連絡先を必ず添え
て下さい。

書 式：用紙 A4、40 字×40 行 一段組、図表ともで 4～6 枚、上下左右の余白を 20mm

（過去の奈良体育学会研究年報をご参照下さい。）

※提出いただく原稿は、オフセット印刷しますので、完成原稿をお願いします。

○日本体育学会から自動的に年会費が引き落とされない会員の皆様へ

平成 23 年度の年会費をお納め下さい。年会費は 1,500 円です。なお、2 年続けて年会費を納入
しない正会員は退会とさせていただきます。

【年会費振込先】 郵便振替 口座番号 01000-2-28169

加入者名 奈良体育学会